

上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)説明・同意書

1. 検査の目的

上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)は、喉・食道・胃・十二指腸にできる病気(炎症、ポリープ、がんなど)を発見し、適切な治療法を選択するために行う検査です。

2. 検査の方法

①鼻から(経鼻内視鏡)、②従来通りの口から、または、③鎮静剤(いわゆる麻酔)を使用して口からと、3つの方法から選択して頂き行えます。

(方法についての詳細は、スタッフにご相談ください。)

鼻腔(鼻の中)や喉に麻酔をかけ、内視鏡を鼻または口から挿入し、消化管(喉(咽頭)・食道・胃・十二指腸)を観察します。検査時間は10分程度です。しかし、病変が見つかり、詳細な観察が必要と判断された場合は、もう少し時間がかかることがあります。

胃の動き(蠕動運動)を抑えるための鎮痙剤や、ご希望の方には鎮静剤(意識を落とし、眠ったり、「ボーッ」とした状態で検査を行うための薬)を使用し、苦痛の少ない状態で検査を受けて頂けます。しかし、持病(心臓病や緑内障、男性の方は前立腺肥大症など)により、これらの薬を使用できない場合もあります。

(持病をお持ちの方は、受付スタッフや看護師、医師にお申し出下さい。)

鎮静剤を使用して検査を行う際は、鎮静剤に関する説明、同意書を別に頂きます。

検査中、病変が見つかった際は、必要に応じて下記の処置を行うことがあります。

- 1)色素散布(人体に害のない色素(インジゴカルミン)を散布し詳しく観察)
- 2)生検(組織の一部を採取し、細胞を顕微鏡で調べる検査)

3. 検査の注意点

脳梗塞や心臓病などの治療のために、血液をサラサラにする薬(ワーファリン・イグザレルト・バイアスピリン・プラビックスなど)を服用されている場合は、生検を行えない場合があります。事前に医師・看護師と相談した上で検査を行います。お申し出下さい。

4. 検査の危険性(偶発症)について

検査は細心の注意を払い慎重に行いますが、下記の危険性(偶発症)が報告されています。

1)出血：0.1%未満(約1,000人に1人)

2)穿孔(消化管に穴があくこと)：0.01%未満(約10,000人に1人未満)

3)ショック(血圧が低下し生命に危険が及ぶ状態)：0.001%未満(100,000人に1人未満)

4)検査による死亡率：0.001%未満(100,000人に1人未満)

このような状態になった場合は、止血処置、輸血、外科手術、あるいは蘇生などの緊急

処置を必要とすることがあります。偶発症や何らかの緊急事態が生じた場合は、責任を持って対応致します。

5. その他

検査は上記の通りです。不明な点がございましたら、看護師、医師にお尋ね下さい。
十分ご理解頂けましたら以下の同意書にご署名下さい。

(本同意は、任意意思ですので検査直前までお取り消し頂けます。)

私は、上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)の目的、方法、注意点、危険性(偶発症)について上記の内容を理解、または医師からの説明を理解し、了承しましたので、検査、治療の実施、検査中に生じた緊急の処置を受けることに同意します。

年 月 日

患者氏名： _____

家族・代理人氏名： _____ (続柄)